

お母さんのためのお役立ちコラム

子どもの自主性を育てる“伝え方”で、ルールを覚えさせましょう！

好奇心が旺盛になり、友だちと遊ぶ機会も増える3歳の頃になると、子どもはさまざまなルールを学んでいきます。

この時期には「こうしなさい!」と頭ごなしに命令をするのではなく、気持ちの伝え方に工夫をして、子どもが「こうしたい」と自主的に思えるよう導いてあげることが大切です。

Ambitious

清水絵津子さん

ビジネスマナー講師、コンサルタント。企業、団体、ゴルフ場等での接遇（ビジネス）マナー・営業マン研修や講演活動を行う「Ambitious」代表。形だけでなく、徹底して現場で即実践出来る、わかりやすい教え方が好評。



言語表現や自我が発達し、相手の立場や痛みを理解し、自分の感情をコントロールできるようになる3歳児は、「〇〇をしてはダメ!」、「〇〇をしなさい!」と頭ごなしに伝えても、なかなか受け入れてはくれません。生活のルールを覚えさせるためには、自主的に「こうしたい」と子どもに思わせるように、その理由や気持ちの伝え方を工夫しなければなりません。

例えば、お風呂に入ることを嫌がった時、なぜお風呂に入らなければならないのか、その理由も伝えず強引に入浴させても、きっと子どもは泣きながら癇癪を起こすだけ。かえってお風呂の中での対応に苦勞してしまいます。同様に、食事の前にお菓子を食べたがる子どもにも、「食べちゃダメ!」と頭ごなしに叱りつけて



しまつては、「どうしても食べたい!」と騒ぐだけで決して解決にはなりません。

こうした状況で大切なことは、なぜお風呂に入らなければならないのか、どうして食事の前にお菓子を食べてはいけないのか、その理由をしっかりと伝えること。「体をきれいに洗わないと、かゆくなっちゃうよ」、「ご飯をおいしく食べるために、お菓子は1つだけにしておこうね」と、分かりやすく諭すように伝えてあげましょう。すると、子どもは自分からすすんで「こうしよう」と理解するようになり、ルールを覚えるとともに相手の気持ちを考えるようにもなります。

もちろん、時には大きな声を出してしまったり、きつく叱ってしまうこともあるでしょう。そんな時のフォローでも、“なぜ怒られたのか”について子どもが理解できるまでに丁寧に伝えることを忘れずに。そして、子どもがその理由を理解できたら、ぎゅっと抱きしめ誉めてあげましょう。子どもはもちろん、きっとママ自身も癒されるはずですよ。